

いのちの輝き

2020
January

54号



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL
宮城県立こども病院

発行：地方独立行政法人 宮城県立こども病院



「たくとう広場」のクリスマス・イルミネーション点灯式

理事長・院長 今泉 益栄

師走の恒例イベント「SENDAI光のページェントin宮城県立こども病院」のクリスマス・イルミネーションの点灯式が12月3日に開催されました。本広報紙(No.45)にも紹介された「こども病院のクリスマス・イルミネーション」は2008年に始まり、SENDAI光のページェント実行委員会、プルデンシャル生命保険、富士古河E&Cの企画主催、並びに河北

新報社の協力で行われています。

第12回となる今年の点灯式は昨年までの愛子ホールから拓桃館「たくとう広場」に変更して開催されました。3年前に拓桃園が併設されてから患者・家族の参加者が徐々に増え、昨年の愛子ホール開催では会場に入らず点灯式を遠くで見られる方もいました。

今回は、約80名の患者・家族に加えて、サンタやトナカイに仮装したプルデンシャル関係者、保育士など育成支援局スタッフ、看護師や主治医などで参加者は優に120名を超える人数となりました。しかし、クリスマス風に装飾された広い「たくとう広場」に窮屈さはなく、こども達の笑いと歓声が多くありました。

第1部は、プルデンシャル生命保険の野邊美香子さんのバイオリンと島森恭佳さんのピアノでミニコンサートが、第2部では声優の山寺宏一さんと愛河里佳子さんのアニメトークと絵本の読み語りがありました。こども達は大いに盛り上がり、最後は暗くした会場でカウントダウンを行い、同心円の光の上を走るトナカイとそりがスクリーンに浮かび上がり、点灯式は歓喜にあふれました。

毎年、こども病院のクリスマス・イルミネーション点灯は、本家本元のSENDAI光のページェント点灯より数日早く始まります。冬の暗い夜に浮かぶ病院のクリスマス・イルミネーションを見て、師走を実感しこの1年を振り返る患者家族や職員は少なくないと思います。



■ 病院理念

- ・私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。
- ・私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

■ 病院の基本方針

1. チーム医療、育成医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
2. こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
3. 一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
4. 小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
5. こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
6. 自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
7. 臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
8. 職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

Contents

各診療科アピールポイント	2
部門紹介	2
拓桃園紹介	3
地域医療連携室だより	4
芸術祭	5
ボランティア紹介	6
行事	6
あとがき	6



当院は日本医療機能評価機構の認定病院です。

各診療科 アピール ポイント



歯科口腔外科・矯正歯科

歯科口腔外科・矯正歯科科長 御代田 浩伸

歯科外来(お口のしんさつ室)は2003年の開院当初よりスタートし、気がつけば17年目になりました。当初のスタッフは口腔外科医と矯正歯科医の歯科医師2名と歯科衛生士1名と看護師が日替わりで1名でした。東北初のこども病院ということで開院時はこのメンバーで歯科として何をすべきか、かなり手探りの状態でした。虫歯の治療も口腔ケアも初めてのことが多く、すべて一から勉強し直し、日々悩みながら診療にあたっていたのを思い出します。

それから17年、今は歯科医師2名、非常勤歯科医師2名、衛生士5名、歯科受付クラーク1名の大所帯になりました。開院当時0歳だったこども達は高校生になり、小学生だった人たちはすでに大人になっています。我々歯科外来もそのこども達と共に、そしてそのこども達のおかげで成長してきました。こども病院に通うこども達は様々な疾患をかかえています。そのこども達のお口の健康を守るためには、ただ「歯を磨きなさい」ではダメです。まずはこちらがこども達の有する疾患を理解することはもちろん、その家族や学校といった生活背景も把握し、その子の成長に興味をもつことから始まります。時には友達として、時には兄として、時には父親として、そして歯科医師として寄り添いつつ、様々な話をしながらアドバイスや診療をおこなってきました。こども達の成長を通じて安心してお口のことを任せてもらうには、こちらも包括的な知識と技術が必要です。現在、歯科には心疾患、血液疾患、脳性麻痺、自閉症、唇顎口蓋裂やその他教科書でしか見ないような稀な疾患を抱えた多くのこども達が通っており、様々な歯科的な問題も複合して抱えています。こども達や親御さん達からみれば、お口や歯の悩みの相談窓口は1つなので、すべての悩みについて相談を受けます。我々歯科ではそれらに対応すべく、持っているすべての知識と技術を用いて日々診療にあたっています。

診察室に来ていただいた方はわかるかもしれませんが、こども病院の歯科外来はこども達が様々な歯科治療を頑張っ泣くこともあります。通常は会話と笑い声に包まれていることが多いところです。スタッフ一同はこども達が身体的にも精神的にも成長する姿を見せられるのが何よりの喜びと感じて仕事をしています。



後列 左から御代田科長、後藤部長、谷地主任衛生士、田代衛生士
前列 左から本田衛生士、永井衛生士、柴田衛生士、庄子クラーク

部門紹介



経営企画課

経営企画課主幹 岩崎 かおり

経営企画課は、事務職員6人(兼務含む)、事務補助員2人の計8人で業務を行っています。主な業務としては、中期計画及び年度計画の策定、理事会及び監事監査の運営、財務管理(予算編成・執行管理、財務諸表作成、決算調製、資産管理等)、物品調達、寄付の受納、業務委託契約、医療関係法令に係る申請・届出、広報などが挙げられます。

第4期中期目標期間(平成30年度から4年間)中は、法人全体として、「定量的目標」を重視した業務遂行が求められています。担当課として目標のあり方を模索する日々ではありますが、目標達成に向けて真摯に取り組みつつ、一方で数字だけでは表せない患者さんとそのご家族の目線を重視した病院運営の実現を目指しております。

対外的な業務としては広報を所掌しており、全面リニューアルから4年目となるホームページについては、WGを中心に、閲覧者の視点をより重視した改善に取り組む予定です。また、12月には入院患者さんを対象としたアンケート調査(満足度調査)を実施し、満足度の現状と変化を分析して今後の病院運営に生かしたいと考えております。(調査結果は、年度内にホームページで公表予定)

「新公立病院改革プラン」(総務省)では、「医療経営の専門性の高まり、医療を巡る環境の急激な変化等を踏まえると、事務職員の人材開発が急務である。」とされています。常に向上心を持ち、病院を力強く支える経営企画課を目指して、一同取り組んで参ります。



後列 左から佐藤主任、神山主事、遠藤課長、柄目主任
前列 左から高橋課員、岩崎主幹、藤本主事、芳賀課員



『入所形態』について

看護部 教育担当看護師長 村上 則子

時代は平成から令和に移り変わりました。医療を取り巻く社会も日々変化し、法律が変わったり、医療体制が変わったりしています。しかし、そのような環境の変化の中で、こども病院が大切にしているこどもへの愛情は、変わるものではありません。拓桃園としての療育の基本的な理念や方針である心の通った医療・療育はずっと継続されています。

今回はこの拓桃園を利用するにはどのような方法があるのか、入所形態について紹介いたします。

<短期入所> 在宅の重症心身障害児の保護者（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第6条に規定する保護者）が、様々な理由で障害児本人を介護することが一時的に困難になった場合にご利用いただける福祉サービスです。

保護者の休養・ご家族の病気や冠婚葬祭などにご利用できます。

肢体不自由児・重症心身障害児の方が対象です。

*自閉症や重度の知的障害の方は病棟の特性上受け入れが困難であるため、対象となる施設への申し込みをお願いします。

サービス内容：食事・排泄・入浴（入浴日が該当する日）などの日常生活上の世話・健康チェック、経管栄養や導尿等の医療的ケア

※医療行為は含まれません。

※利用期間中に医療を必要とする場合は、保護者の方に連絡をさせていただき、保険診療に切り替えて医療行為を行うことになります。自治体で発行する受給者証が必要となります。

<契約入所> 拓桃園は、医療型障害児入所施設としての指定を受け設置されております。医療法に基づき設置した「病院」であり、かつ児童福祉法に基づく「医療型障害児入所施設」であって、学校教育法に基づく「宮城県立拓桃支援学校」が併設されています。障害のある児童に対し、医療、生活指導、教育を期間と目標を決めて総合的に行う療育施設です。入所中は拓桃園のスタッフによる療育サービスを受けることになります。

入所されたお子さんの治療・リハビリがより効果的に行われるよう、健康管理や生活上の様々な支援を行います。生活支援においては、一人ひとりの発達段階に応じて、必要な生活習慣の獲得や社会性の発達を促すよう多職種で協力して、支援しています。

<親子入所> 先天的または後天的に身体に何かの障害や発達に遅れがあるお子さんとその保護者を対象に、2か月間、専門スタッフから生活上のアドバイスを受け、訓練の仕方やその裏付けを学び、生活に活かせる実践の習得を目的としています。

2か月間、お子さんと保護者を共に入所させることにより、より適切な療育効果が得られると判定された方が対象となります。体調管理、食事・睡眠・遊びなどの生活リズムや子育てについて、ご家族と一緒に考え、退所後においても継続した療育ができるよう支援します。





地域医療連携室だより

緊急で当日の受診を必要とする患者さんのご紹介について

(副院長・地域医療連携室室長 虻川 大樹)

登録医療機関・かかりつけ医・地域の医療機関の先生より、当日当院での急ぎの受診(もしくは入院)が必要な患者さんをご紹介いただく場合、まず電話でご一報をお願いいたします。

病院代表 TEL 022-391-5111

〈電話交換手に「緊急です」とお申し出ください。〉



該当診療科医師または救急当番担当医(内科系医師)におつなぎします。

※時間外での緊急の診察依頼は、時間外窓口(防災センター)でお受けします。

病院代表 TEL 022-391-5111

●産科よりおしらせ

現在、産科では医師の異動などに伴い当面の間、一般の方の妊婦検診や分娩のお引き受けが困難となっております。どうぞご了承ください。

●地域医療研修会のご案内

第47回臨床遺伝カンファランス

開催日時 令和2年2月6日(木)18:00～19:00

小児看護研修会

開催日時 令和2年2月14日(金)18:00～19:00

研究倫理研修会

開催日時 令和2年3月3日(火)17:30～18:30(開始時間が普段より30分早くなっております)

第48回臨床放射線病理カンファランス

開催日時 令和2年3月11日(水)18:00～19:00

上記研修会の開催場所は、すべて宮城県立こども病院 本館1階 愛子ホールです。

詳細が決まり次第、登録医のうちメールアドレス登録済みの先生方へ電子メールでご案内いたします。それ以外の先生方のご参加も歓迎いたしております。参加を希望される方は、当院地域医療連携室(E-mail:tiiki@miyagi-children.or.jp)へお申し込みいただけますと幸いです。

宮城県立こども病院 地域医療連携室 室長 虻川 大樹

〒989-3126 仙台市青葉区落合四丁目3番17号 受付時間/月曜日～金曜日(祝日、年末年始は除く)8:30～17:00
TEL: 022-391-5115(直通) FAX: 022-391-5120(直通) E-mail: tiiki@miyagi-children.or.jp



第1回こども病院芸術祭 を開催しました

副院長・成育支援局長 虻川 大樹

11月13日(水)～15日(金)に「第1回こども病院芸術祭」を開催しました。

16年前の開院当時から、当院にはブロンズレリーフ「おおきなかぶ」をはじめ多くのアート作品が展示され、病気のこども達やご家族を癒してくれています。このホスピタルアートの力を改めて見直すとともに、創作活動と発表・鑑賞を通じて、当院に関わるあらゆる人に憩いや表現の場を提供することを目的として、今年初めて芸術祭を企画しました。

メイン会場となる愛子ホールでの特別展では、入院中のこども達や、職員、ボランティアの皆さんの力作が所狭しと展示され、一つ一つの作品に込められた作者の個性や思いが伝わってきました。多くの方にご来場いただき、「感動しました」「心が洗われるようでした」「こども達の作品は色合いもキレイで夢あふれるようです」などのお言葉を多数頂戴しました。

また、本館1階および拓桃館1階に常時展示されている多くの作品を紹介する「アートマップ」を作成して、来院した皆さんに配布しました。美術館さながらに、マップを片手に作品を観て回るオリエンテーリングをお楽しみいただけたことと思います。

もうひとつの目玉は、音楽イベント「まほうの広場フェス」です。普段は月1～2回不定期に行われるお昼の「まほうの広場コンサート」を、期間中毎日開催しました。

11月13日(水)フルートとビオラの二重奏

11月14日(木)ならやんず(サーランギとピアノのデュオ)

11月15日(金)こども病院軽音楽部

さらに12日(火)夕方には、拓桃館に入院中のこども達を対象とした「前夜祭 in たくとう広場」を開催し、ジブリ特集のプログラムでこども達も職員も一緒に楽しみました。ジャズフェスさながらに街角(病院)に音楽があふれる、夢のような4日間となりました。

出展・出演してくださった皆様、足を運んでくださった皆様、準備や裏方としてご協力いただいた病院職員、ボランティア、拓桃支援学校、ドナルド・マクドナルド・ハウスさんなどすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

秋の深まるこの季節、アートの力を感じ、一緒に楽しんでいただけるように、また来年「第2回こども病院芸術祭」をぜひ開催したいと思います。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



拓桃支援学校の生徒のみなさんの作品



まほうの広場フェス



拓桃館の幼児さんたちの作品



愛子ホールでの特別展

ボランティア 紹介



こども病院芸術祭

ボランティアコーディネーター事務補助員 庄司 三枝

初めての試みである『こども病院芸術祭』が11月12日の前夜祭から15日まで開催され、愛子ホールでは作品展示、まほうの広場ではコンサートが行われました。

拓桃支援学校の生徒さんや院内の患者さんの作品の他に28名のボランティアと病院スタッフ、 دونالد・マクドナルド・ハウスさんだいの皆さんによって、油絵、色鉛筆画、写真、クラフト、手工芸品等のハイレベルな作品が展覧されました。作品の中には直接触って遊べるものもあり、こども達だけでなく来場者の皆さんにも大変好評でした。

展示にあたっては、ボランティアが積極的に関わり、見に来てくださる方に楽しんでいただけるようにと、作品の位置を何度も並び替え工夫しました。

3日間で延べ40名のボランティアが協力し、院内と愛子ホールのお客様対応にあたり、たくさんの皆さんに喜んでいただきました。普段は活動内容の違うボランティア同士の交流ができ、一緒に活動した病院スタッフとの繋がりも深まりました。

この度の芸術祭を通してより一層、一体感の醸成ができたと思います。



行事

- 1月8日(水) クリニクラウン訪問(本館3階病棟、外来)
- 1月10日(金) もちつき会
- 1月28日(火) ゴスペルコンサート(たくとう広場)
- 1月30日(木) まほうの広場コンサート
- 2月3日(月) 豆まき会
- 2月10日(月) まほうの広場コンサート



あとかき

広報委員一丸となって、皆様に喜んでいただける広報紙を作ってまいります。

ご意見、ご感想がございましたら、ぜひ広報委員までお寄せください。

今後とも、広報紙『いのちの輝き』へのご協力をよろしくお願いいたします。

広報委員会委員一同

地方独立行政法人 宮城県立こども病院

〒989-3126

宮城県仙台市青葉区落合四丁目3番17号

TEL: 022-391-5111

FAX: 022-391-5118

<http://www.miyagi-children.or.jp/>

広報委員会

委員長 田中 高志

広報委員 武山 淳二

村上 則子

横山麻依子

猪狩 菜緒

蛇川 大樹

高橋 美紗

工藤 久江

鈴木 敏也

佐藤 亮

町井 祐輔

大塚 有希

遠藤 幸春

小畑 正子

本田 天斗

外山 理江

岩崎かおり

原山千穂子

秋山 佳子

真嶋 智彦

藤本 尚子



環境に優しい
ベジタブルインキを
使用しています。